

# 教師の自己像と生徒像

高 木 秀 明

## A Study of Teachers' Self-Image, Role-Image, and Pupil-Image

Hideaki TAKAGI\*

### Summary

The purpose of this study was to investigate primary school teachers' self-image, role-image, and pupil-image, using the semantic differential method.

The subjects were 85 primary school teachers (54 male teachers and 31 female teachers). They were presented four concepts (i. e. self, an ideal teacher, a likable type pupil, and a dislikable type pupil) and were asked to give views on each of the concepts by rating them on a 21-scale semantic differential.

The following results were obtained:

(1) The self was positively rated as bright, happy, honest, vigorous, cooperative, responsible, full of drive, and impartial.

(2) An ideal teacher was rated more positively than self. There was a significant difference between the sexes on this concept. The male teachers rated an ideal teacher as stricter than the female teachers.

(3) A likable type pupil was rated as positively as an ideal teacher.

(4) A dislikable type pupil was rated negatively as gloomy, cold, dishonest, depressed, contrary, irresponsible, selfish, loose, impatient, lacking in drive, partial, and boring. There were significant differences between the sexes on this concept. The female teachers rated a dislikable type pupil as more dishonest, more depressed, more selfish, more vulgar, more partial, and more boring than the male teachers.

(5) Two factors of images were found on a dislikable type pupil by means of factor analyses of the subjects' responses. There were differences in factor structures between the sexes. The male teachers disliked a pupil because of his emotional character. The female teachers disliked a pupil because of his lack of essential virtues.

### はじめに

現在の日本における教育問題については、実に様々な問題が提起されている。また現在程、教育に対する社会的関心が高まっている時代もかつて無かったのではないだろうか。しかもそれらは良い状態での関心ではなく、校内暴力、非行、授業妨害、登校拒否、受験競争の過熱など、教育の荒廃を感じさせる事柄が問題となってきているのである。中でも校内暴力に関しては、常識を超えた事件が相次いでいる。その要因については様々な指摘

---

\* 心理学教室 (Dept. of Psychology)

がなされているが、戦後の学校制度、現在の社会背景、家庭環境などと共に、教師のあり方も見逃すことのできない要因である。

いうまでもなく教育は人によってなされるものである。教師と生徒との関係は、親子、兄弟、友人関係など同様に、子どもの人格や人間性の形成に大きな影響を及ぼす。教師が単に知識や技能を教えるだけの存在で許されるならば、教師の人格や徳性、人間性は問題にならない。しかし子どもは、小学校、中学校、高校と年齢を重ねるにつれて、身体や知的能力が発達するだけでなく、自我や感情、意志などの心理的側面も大いに成長し、変化していく。したがって、教師の有する人格や人間性は、各段階の子ども達の発達にとって大変重要な意味を持つてくる。

以上のように、教師は、正しい文化の伝達者として専門的な知識や技術を持たなければならないと同時に、生徒の人格や人間性の発達に影響を及ぼす者として、自身の人間性が問われてくる。そして、日一日と成長を続ける子どもの立場に立つならば、教育においては試行錯誤は許されないと考えられるので、教師の役割が益々重大になってくる。このような点から、教師に対する社会的要求や期待は過大になりがちであるが、教師自身は自己をどのようにみているのであろうか。従来から、一般社会が求める教師像についてはいろいろ論議がなされており、生徒からみた教師像についても夥しい数の研究がある（高木・堀、1980）。ところが教師自身がどのような教師像を抱いているかについてはあまり研究がなされていないようであり、加藤（1979）の研究が目立つ程度である。

そこで本研究は以上のことをふまえて、小学校教師を対象にし、次の点を調べることを目的として行なわれた。

- (1) 現役の教師が自己をどのようなイメージで捉えているか。
- (2) 教師が描く理想の教師像。
- (3) 教師が描く好きなタイプの生徒像。
- (4) 教師が描くきれいなタイプの生徒像。
- (5) 教師の描く教師像と生徒の描く教師像の比較。
- (6) 教師の描く生徒像と生徒の自己像との比較。

## 方 法

### 1. 調査項目

加藤・石川・田中・落合・高木・堀（1981）の用いた、21対の形容詞から成るSD形式の調査項目を使用した。これらの形容詞対をランダムな順序に並べ、左右の位置もランダムにして提示し、「私」、「理想の教師」、「好きなタイプの生徒」、「きれいなタイプの生徒」の4つの概念について6段階評定（たとえば、「くらい—あかるい」に対しては「とてもくらい」、「かなりくらい」、「すこしくらい」、「すこしあかるい」、「かなりあかるい」、「とてもあかるい」の中からあてはまるものを1つ答えてもらい、それぞれの回答に対して1点から6点の得点を与えた）でそのイメージを測定した。

## 2. 調査対象および調査時期

調査対象は首都圏（東京都および横浜市）の公立小学校教師85名（男性教師54名，女性教師31名）である。調査は1980年に実施した。

## 3. 比較のための生徒のデータ

教師の描くイメージを生徒の描くイメージと比較するために，加藤他（1981）で報告した小学生のデータを用いた。これは本研究と同じ21対の形容詞を首都圏（東京都および横浜市）の公立小学校（6校）5年生403名（男子206名，女子197名）に提示し，「私」と「すきな先生」の2つの概念について6段階評定でそのイメージを測定したものである。

# 結 果

## 1. 教師の描く自己像と理想像

Table 1, Table 2, Fig. 1, Fig. 2 に基づいて，教師の自己像と理想としている教師像

Table 1 男性教師の描く教師像と生徒像

項 目	私		理想の教師		好きなタイプの生徒		きれいなタイプの生徒	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1. くらいーあかるい	4.59	0.83	5.39	0.66	5.30	0.69	1.61	1.00
2. 不幸なー幸福な	4.63	0.78	4.94	0.88	4.78	0.98	3.16	1.75
3. つめたいーあたたかい	4.24	0.97	5.13	1.07	5.26	0.76	1.72	1.31
4. ふまじめなーまじめな	4.37	1.07	4.93	0.97	4.67	0.87	1.70	1.17
5. 元気がないー元気な	4.63	0.98	5.50	0.72	5.59	0.53	1.71	1.25
6. 対立的なー協力的な	4.77	0.78	5.26	0.76	5.26	0.68	1.69	1.06
7. 責任感のないー責任感のある	4.83	0.84	5.61	0.63	5.28	0.88	1.43	0.87
8. 自分勝手なー思いやりのある	4.20	1.12	5.30	1.06	5.28	0.79	1.66	1.18
9. けじめのないーけじめのある	4.26	1.10	5.35	0.71	5.02	0.98	1.50	0.82
10. いらいらしたーおちついた	3.59	0.98	5.30	0.80	4.85	0.86	1.70	0.95
11. きゅうくつなー自由な	4.13	0.97	4.96	0.82	4.80	0.88	1.85	1.27
12. やる気のないーやる気のある	4.69	0.75	5.48	0.75	5.31	0.64	1.63	1.10
13. 下品なー上品な	4.04	0.85	4.85	0.83	4.67	0.85	2.02	1.47
14. 考えが古いー考えが新しい	3.20	1.11	4.44	1.19	4.72	0.86	2.57	1.66
15. 不公平なー公平な	4.60	0.69	5.53	0.75	5.02	0.89	1.56	0.93
16. たよりないーしっかりした	4.08	1.05	5.37	0.85	4.96	0.87	2.00	1.52
17. きびしいーやさしい	2.78	1.11	2.34	1.14	3.83	1.45	2.24	1.52
18. つまらないーたのしい	4.48	0.84	5.31	0.67	5.22	0.77	1.59	0.96
19. いばるーしたがう	3.42	0.93	3.51	0.78	4.04	0.97	2.06	1.65
20. きらいなーすきな	3.72	1.13	4.70	1.10	4.72	0.97	1.90	1.16
21. 尊敬できないー尊敬できる	3.83	0.86	5.09	1.15	4.52	0.91	1.82	1.03

Table 2 女性教師の描く教師像と生徒像

項 目	私		理想の教師		好きなタイプの生徒		きれいなタイプの生徒	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1. くらい—あかるい	4.65	0.49	5.29	0.53	5.35	0.61	1.32	0.48
2. 不幸な—幸福な	4.65	0.55	4.94	0.63	4.68	0.75	2.60	1.65
3. つめたい—あたたかい	4.20	0.93	5.23	0.76	5.13	0.81	1.47	0.73
4. ふまじめな—まじめな	4.71	0.78	4.87	0.89	4.74	0.97	1.16	0.37
5. 元気がない—元気な	4.58	0.99	5.61	0.50	5.39	0.56	1.23	0.43
6. 対立的な—協力的な	4.71	0.64	5.26	0.63	5.16	0.69	1.32	0.95
7. 責任感のない—責任感のある	4.90	0.79	5.65	0.49	5.40	0.56	1.13	0.34
8. 自分勝手な—思いやりのある	3.74	1.09	5.58	0.50	5.35	0.61	1.17	0.38
9. けじめのない—けじめのある	4.48	1.12	5.52	0.81	5.00	1.00	1.35	0.99
10. いらいらした—おちついた	3.90	0.87	5.32	0.60	4.94	0.96	1.57	1.28
11. きゅうくつな—自由な	3.97	1.19	4.90	0.83	4.74	0.77	1.80	1.42
12. やる気のない—やる気のある	4.74	1.13	5.71	0.46	5.42	0.96	1.30	0.54
13. 下品な—上品な	3.93	0.83	4.77	0.85	4.55	0.85	1.19	0.40
14. 考えが古い—考えが新しい	3.32	1.08	4.53	0.94	4.50	0.86	2.55	1.90
15. 不公平な—公平な	4.68	0.87	5.71	0.46	5.10	1.11	1.19	0.40
16. たよらない—しっかりした	3.94	1.18	5.52	0.57	4.94	0.73	2.07	1.84
17. きびしい—やさしい	2.81	1.30	3.17	1.42	4.30	1.37	1.75	1.35
18. つまらない—たのしい	4.35	1.02	5.58	0.56	5.29	0.64	1.23	0.43
19. いばる—したがう	4.00	1.02	3.48	0.93	3.68	1.01	2.23	1.96
20. きらいな—すきな	4.00	0.87	4.97	1.05	4.79	0.98	1.39	0.79
21. 尊敬できない—尊敬できる	3.61	0.92	5.39	0.72	4.60	0.72	1.33	0.71

について検討する。

まず自己像の特徴をみると、男女とも自己を、あかるく、幸福で、あたたかく、まじめで、元気で、協力的で、責任感があり、けじめがあり、やる気があり、公平で、きびしく、たのしい、と捉えている。t検定の結果、男性教師と女性教師の間に有意差のあった項目は「いばる—したがう」だけであった。女性教師は自己をあまりいばらず、権威的でないとして捉えているようである。

次に、教師の描く理想の教師像についてみると、「きびしい—やさしい」、「いばる—したがう」以外の19項目に関しては、男女共にすべてポジティブなイメージを持っている。「きびしい—やさしい」の項目では性差が有意であり、男性教師はかなりきびしい教師を理想像としているが、女性教師は中庸を理想としている。

理想の教師像はほとんどの項目において、自己像よりも有意に得点が高い。対応のあるt検定を行なった結果、両イメージ間に有意差のなかった項目は、男性教師では「いばる—したがう」だけであり、女性教師では「不幸な—幸福な」、「ふまじめな—まじめな」、「きびしい—やさしい」の3項目であった。教師は自己を全般的に良いイメージで捉えて

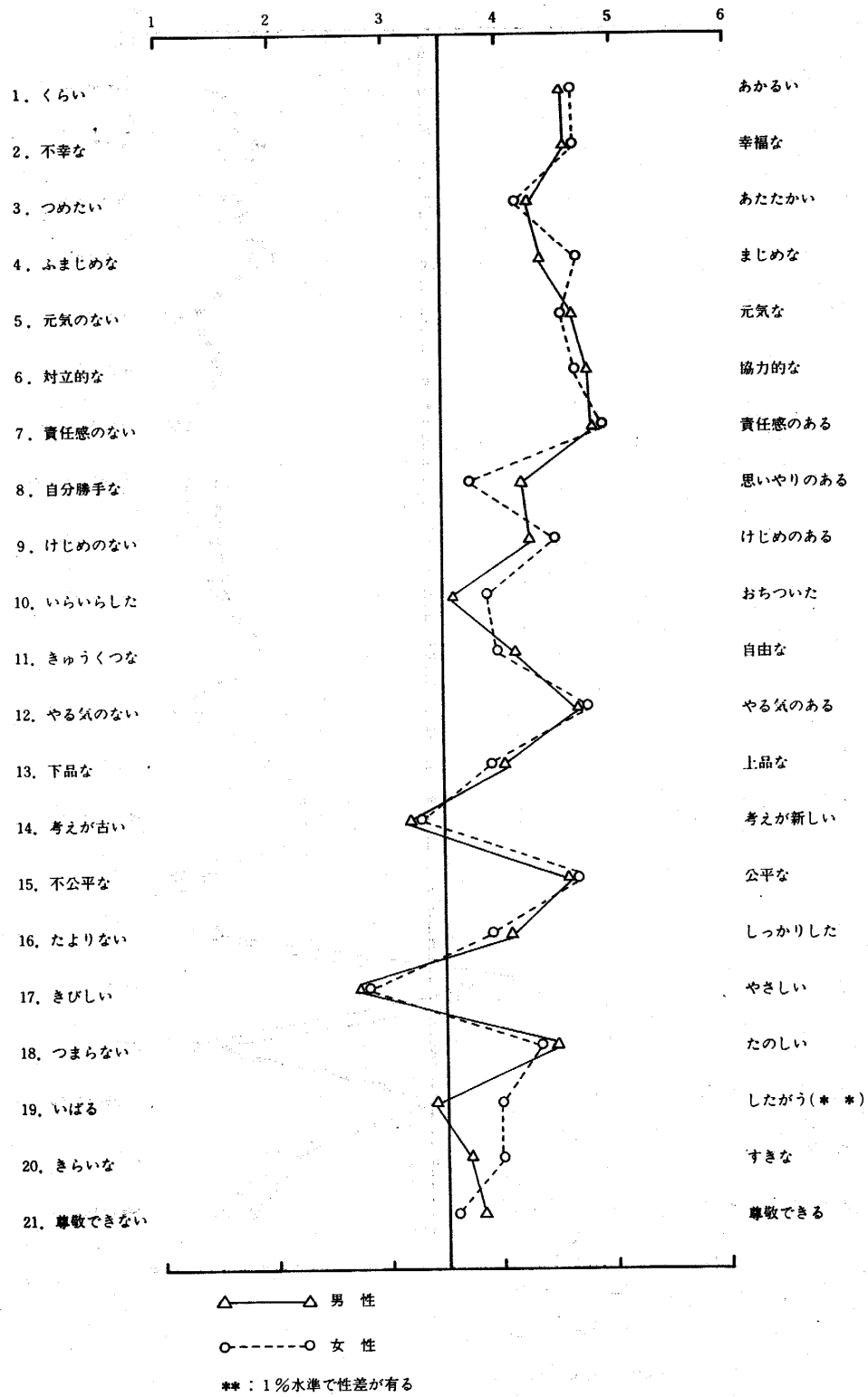


Fig. 1 教師の自己像

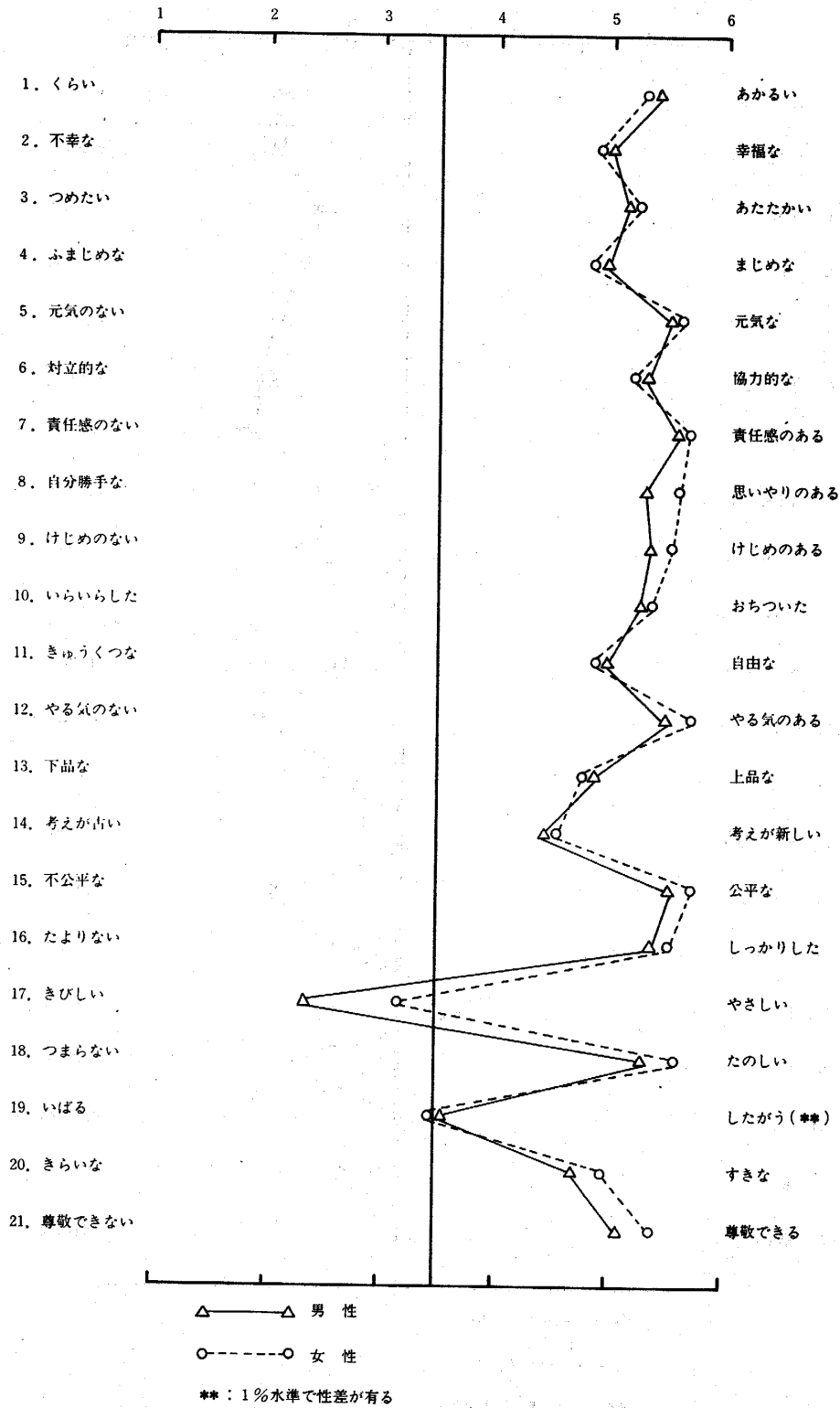


Fig. 2 教師の描く理想の教師像

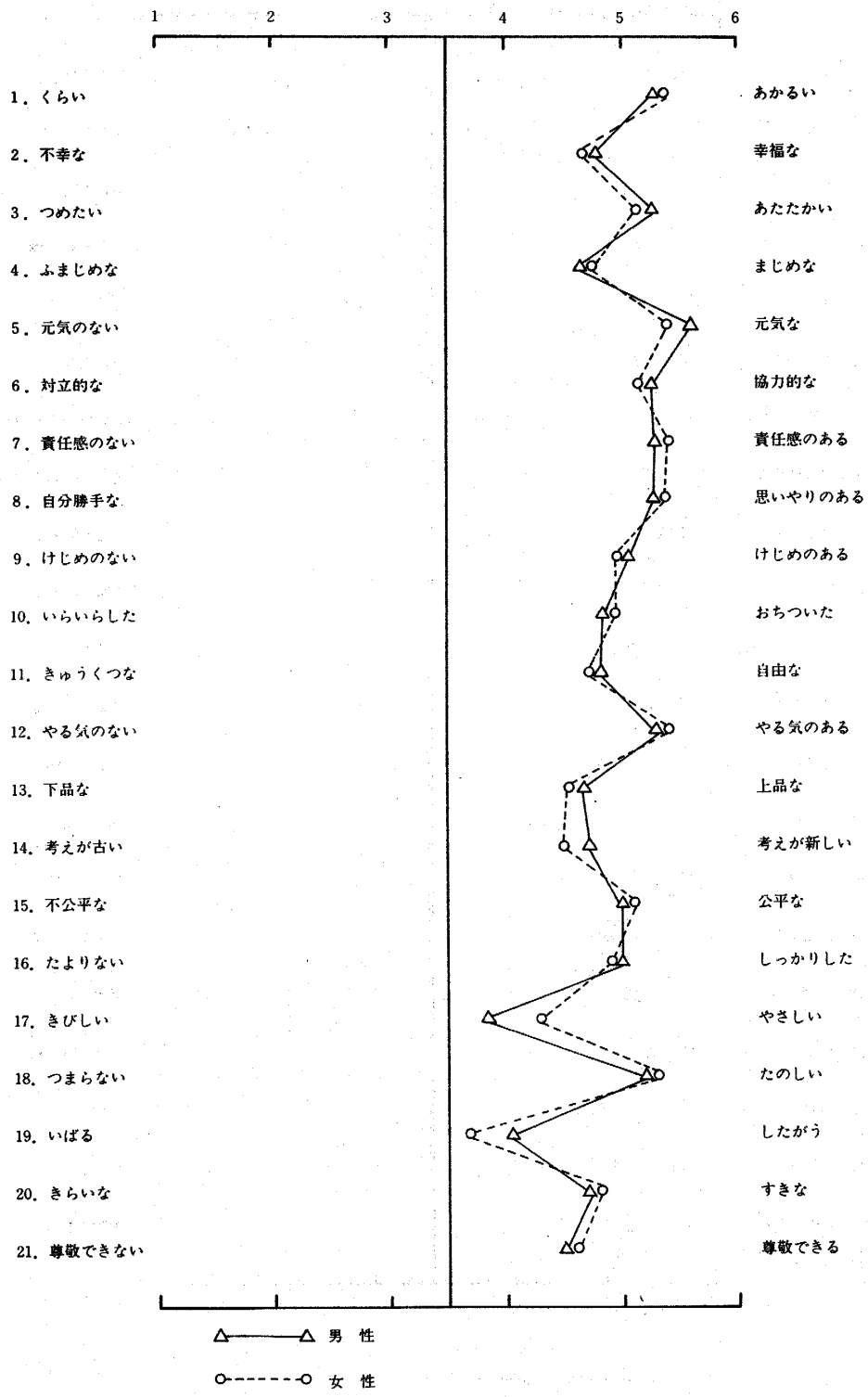


Fig. 3 教師の描く好きなタイプの生徒像

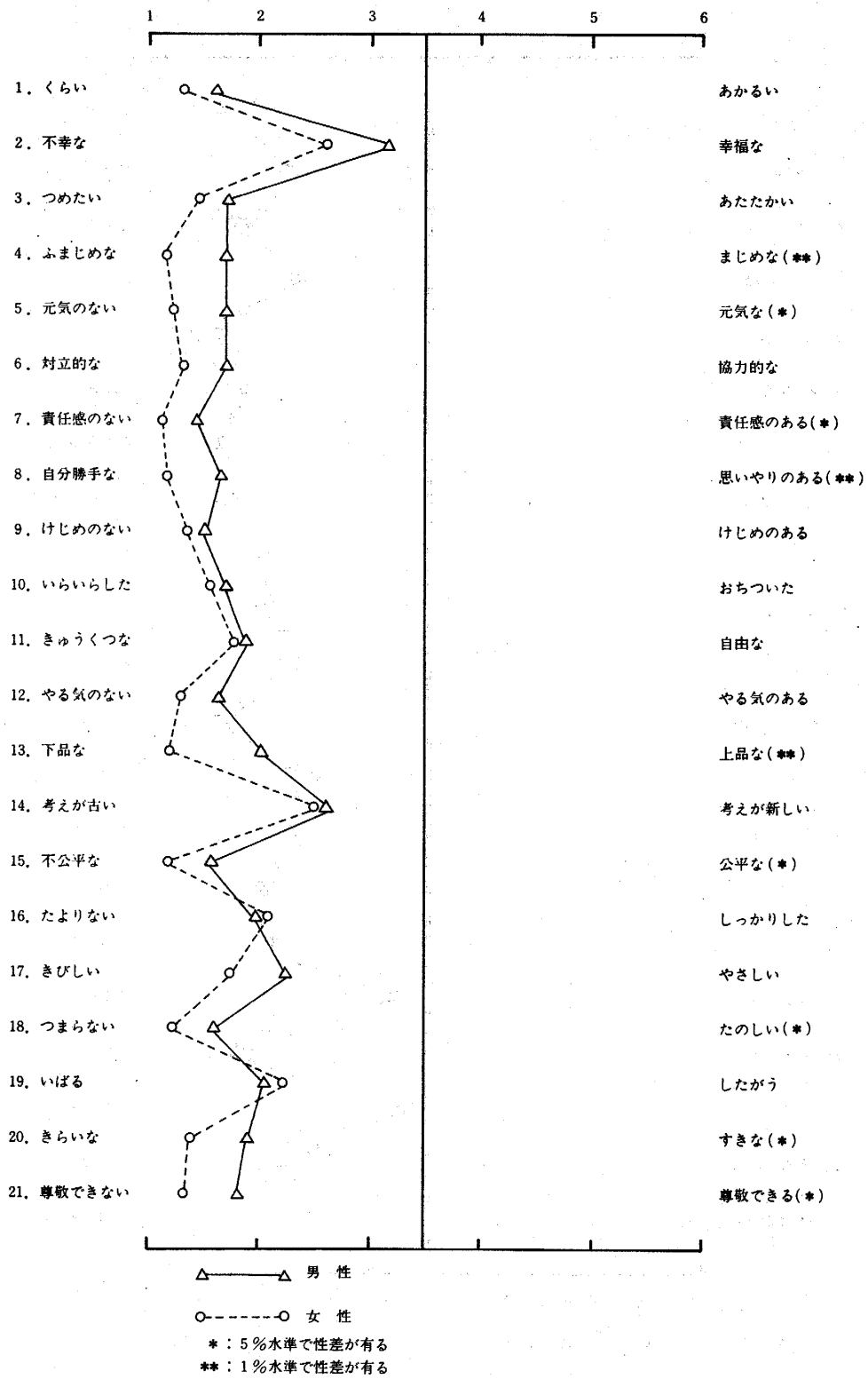


Fig. 4 教師の描くきれいなタイプの生徒像



いるが、理想像としてはその内容の発展をさらに望んでいるようである。ただし、男性教師は「いばる—したがう」の項目では現状を最善と認識しているようであり、女性教師は「ふまじめな—まじめな」の項目と「きびしい—やさしい」の項目においてみられるように、現実に精一杯のまじめさで取り組んでおり、また現状の中庸に近いきびしさが最善であると考えているように思われる。さらに女性教師は現状で十分に幸福であると感じているようである。

## 2. 教師の描く好きなタイプの生徒像ときらいなタイプの生徒像

Table 1, Table 2, Fig. 3, Fig. 4 に基づいて、教師の描く好きなタイプの生徒像ときらいなタイプの生徒像を検討する。

まず好きなタイプの生徒像の特徴をみると、あかるく、あたたかく、まじめで、元気、等の誰もが好む内容が示されている。しかもこの好きなタイプの生徒像に関しては、有意

Table 3 男性教師の描くきらいなタイプの生徒像の因子分析結果

項 目	因子 負 荷 量		h <sup>2</sup>
	I	II	
1. くらい—あかるい	.80	.24	.69
2. 不幸な—幸福な	.28	-.40	.24
3. つめたい—あたたかい	.26	.52	.34
4. ふまじめな—まじめな	.67	.06	.46
5. 元気がない—元気な	.65	.25	.49
6. 対立的な—協力的な	.58	.18	.37
7. 責任感のない—責任感のある	.84	.04	.70
8. 自分勝手な—思いやりのある	.42	.55	.48
9. けじめのない—けじめのある	.81	.27	.72
10. いらいらした—おちついた	.50	.55	.56
11. きゅうくつな—自由な	.45	.14	.22
12. やる気のない—やる気のある	.70	.18	.53
13. 下品な—上品な	.71	-.02	.50
14. 考えが古い—考えが新しい	.10	.61	.38
15. 不公平な—公平な	.84	.12	.73
16. たよりない—しっかりした	.57	-.29	.41
17. きびしい—やさしい	-.12	.71	.51
18. つまらない—たのしい	.63	.39	.55
19. いばる—したがう	.09	.43	.19
20. きらいな—すきな	.26	.63	.47
21. 尊敬できない—尊敬できる	.42	.36	.31
因子負荷量の2乗和	6.69	3.14	9.83
寄 与 率 (%)	31.86	14.95	46.81

な性差はどの項目にも認められない。

次に、きれいなタイプの生徒像をみると、くらい、つめたい、ふまじめな、等のように、ほとんどすべての項目においてネガティブなイメージが持たれている。有意な性差がある項目は、「ふまじめな—まじめな」、「元気がない—元気な」、「責任感のない—責任感のある」、「自分勝手な—思いやりのある」、「下品な—上品な」、「不公平な—公平な」、「つまらない—たのしい」、「きれいな—すきな」、「尊敬できない—尊敬できる」の9項目である。これらの9項目のすべてにおいて、女性教師は男性教師よりもよりネガティブなイメージをきれいな生徒に対して持っている。元気がない、下品、つまらない、等は女性教師の持つ感受性からくるものとも考えられる。

以上のように、きれいなタイプの生徒像にはいくつかの項目において性差がみられた。そこで、男性教師と女性教師がそれぞれに描く、きれいなタイプの生徒像における因子構造の相違を検討するために、21項目に対する教師の反応を基にして男女別の因子分析を

Table 4 女性教師の描くきれいなタイプの生徒像の因子分析結果

項 目	因子 負 荷 量		h <sup>2</sup>
	I	II	
1. くらい—あかるい	.72	.09	.53
2. 不幸な—幸福な	.05	.59	.35
3. つめたい—あたたかい	.82	.13	.68
4. ふまじめな—まじめな	.82	.16	.70
5. 元気がない—元気な	.89	.13	.80
6. 対立的な—協力的な	.09	.89	.81
7. 責任感のない—責任感のある	.78	.03	.61
8. 自分勝手な—思いやりのある	.78	.03	.61
9. けじめのない—けじめのある	.21	.87	.80
10. いらいらした—おちついた	.03	.02	.00
11. きゅうくつな—自由な	.41	-.20	.21
12. やる気のない—やる気のある	.81	-.03	.66
13. 下品な—上品な	.72	.04	.52
14. 考えが古い—考えが新しい	.23	-.34	.17
15. 不行平な—公平な	.77	.06	.59
16. たよらない—しっかりした	-.01	.57	.33
17. きびしい—やさしい	.28	-.11	.09
18. つまらない—たのしい	.89	.13	.80
19. いばる—したがう	-.06	-.27	.08
20. きらいな—すきな	.54	.09	.30
21. 尊敬できない—尊敬できる	.88	.09	.79
因子負荷量の2乗和	7.84	2.58	10.42
寄 与 率 (%)	37.33	12.29	49.62

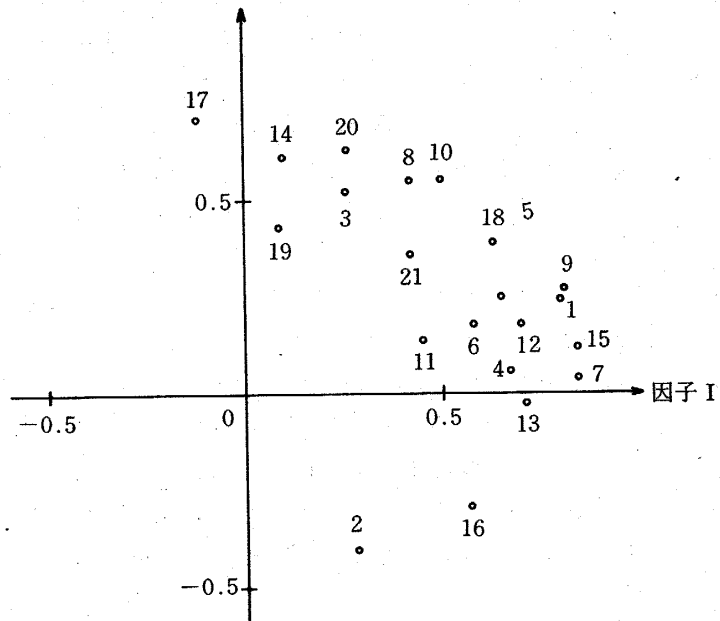


Fig. 5 男性教師の描くきれいなタイプの生徒像の因子負荷量による平面布置 (数字は項目番号)

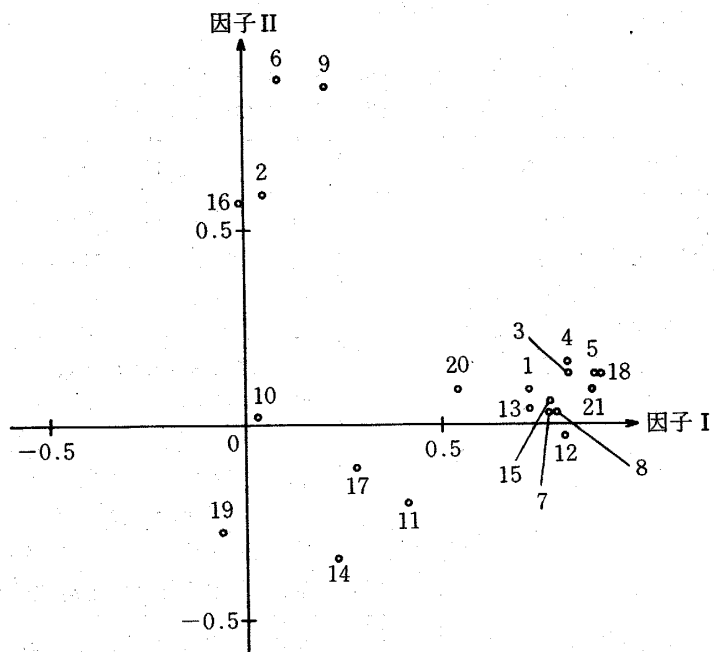


Fig. 6 女性教師の描くきれいなタイプの生徒像の因子負荷量による平面布置 (数字は項目番号)

行なった。Table 3, Table 4 は、主成分分析を行なって抽出した2因子について、バリマックス回転を行なった結果を男女別に示したものである。また Fig. 5, Fig. 6 は、その因子行列に基づいて、第I因子を横軸、第II因子を縦軸にして各項目をプロットした図である。Fig. 5 をみると、男性教師の場合、各項目は連続的に布置されており、きれいなタイプの生徒像の因子構造上の布置には連続性が認められる。それに対して女性教師の場合、Fig. 6 をみると、項目は連続的に布置されておらず、因子構造上の布置に分離が認められる。

女性教師の描くきれいなタイプの生徒像の因子構造は、3つの部分に分けられるようである。第1は項目2, 6, 9, 16から成る部分であり、第2は項目1, 3, 4, 5, 7, 8, 12, 13, 15, 18, 20, 21から成る部分、第3は項目10, 11, 14, 17, 19から成る部分である。そのうち「きれいな—すきな」の項目が含まれるのは第2の部分である。一方、男性教師の描くきれいなタイプの生徒像の因子構造において、「きれいな—すきな」の項目に近い位置に布置している項目は、項目3, 8, 10, 14, 17, 19である。これらの項目を比較して示したものが Table 5 である。これらは因子構造上「きれいな—すきな」と類似する項目であり、したがって「きれいな—すきな」と共変動する項目であると考えられる。男性教師と女性教師に共通する項目は少なく、「つめたい—あたたかい」と「自分勝手な—思いやりのある」の2項目だけである。この結果から、男性教師は「いらいらした」、「いばる」等の感情面の性質によってきれいなタイプの生徒をイメージしていることがわかる。それに比べ、女性教師は「ふまじめな」、「責任感のない」等の人間にとって本質的に重要な徳性の欠如として、きれいなタイプの生徒をイメージしているようである。

Table 5 きれいなタイプの生徒像の因子平面上において「きれいな—すきな」の項目に近く布置する項目

男 性 教 師	女 性 教 師
③ つめたい—あたたかい	1. くらい—あかるい
⑧ 自分勝手な—思いやりのある	③ つめたい—あたたかい
10. いらいらした—おちついた	4. ふまじめな—まじめな
14. 考えが古い—考えが新しい	5. 元気がない—元気な
17. きびしい—やさしい	7. 責任感のない—責任感のある
19. いばる—したがう	⑧ 自分勝手な—思いやりのある
	12. やる気のない—やる気のある
	13. 下品な—上品な
	15. 不公平な—公平な
	18. つまらない—たのしい
	21. 尊敬できない—尊敬できる

(注) 項目番号に○のついている項目は男女に共通する項目である。

## 3. 教師の描く教師像と小学生の描く教師像との比較

加藤他(1981)によって得られた、小学生の描くイメージの結果を Table 6 に示した。この結果と Table 1, Table 2 の結果を用いて、小学生の描く教師像と、教師の描く教師像を比較する。

Table 6 小学生の描く教師像と自己像

項 目	概 念		すきな先生				私			
	性 別		男 子		女 子		男 子		女 子	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD		
1. くらいーあかるい	5.48	0.72	5.68	0.55	5.17	0.99	5.18	1.08		
2. 不幸なー幸福な	5.20	0.90	5.48	0.74	5.15	1.04	5.32	0.92		
3. つめたいーあたたかい	4.96	1.14	5.47	0.83	4.71	1.08	4.74	1.07		
4. ふまじめなーまじめな	5.12	1.01	5.13	1.16	4.13	1.32	4.17	1.18		
5. 元気がないー元気な	5.49	0.83	5.65	0.55	5.40	0.88	5.39	0.98		
6. 対立的なー協力的な	5.26	0.97	5.43	0.77	4.64	1.20	4.69	1.06		
7. 責任感のないー責任感のある	5.41	0.87	5.55	0.70	4.37	1.26	4.47	1.13		
8. 自分勝手なー思いやりのある	4.84	1.26	5.25	0.95	3.84	1.29	4.08	1.30		
9. けじめのないーけじめのある	5.20	0.98	5.39	0.90	4.08	1.31	4.31	1.16		
10. いらいらしたーおちついた	4.78	1.28	5.24	1.04	4.02	1.39	4.22	1.25		
11. きゅうくつなー自由な	5.11	0.92	5.35	0.87	5.11	1.07	5.27	0.96		
12. やる気のないーやる気のある	5.36	0.92	5.50	0.82	4.64	1.21	4.73	1.05		
13. 下品なー上品な	4.47	1.26	4.56	1.24	3.99	1.21	3.95	1.02		
14. 考えが古いー考えが新しい	4.13	1.59	4.32	1.55	4.83	1.28	5.02	1.03		
15. 不公平なー公平な	5.04	1.23	5.33	1.05	4.64	1.19	4.79	1.15		
16. たよらないーしっかりした	5.25	1.04	5.43	0.98	4.20	1.29	4.42	1.14		
17. きびしいーやさしい	2.89	1.65	3.33	1.72	4.12	1.23	4.33	1.18		
18. つまらないーたのしい	5.31	1.02	5.62	0.79	5.02	1.15	5.26	1.01		
19. いばるーしたがう	3.74	1.30	3.77	1.32	3.74	1.34	3.85	1.10		
20. きらいなーすきな	4.98	1.28	5.53	0.93	4.75	1.35	4.92	1.29		
21. 尊敬できないー尊敬できる	5.22	1.19	5.56	0.83	4.25	1.45	4.08	1.34		

Table 7 は、教師の自己像と小学生の描くすきな教師像とを比較して、t 検定を行なった結果を示したものである。この結果をみると、ほとんどの項目において教師の自己像は小学生の描くすきな教師像よりも有意に得点が低くなっている。質問項目に対する理解の内容に関して、教師と小学生の間にはどの程度の一致が存在するかという問題は残っているが、この結果は、教師の現実のレベルと小学生の期待するレベルとの間には差があることを示している。しかしそれも程度の差であり、内容に矛盾はないので、ある意味で当然の結果と考えられる。それらに対して、「いばるーしたがう」、「きびしいーやさしい」では、教師の現実のレベルと小学生の期待するレベルとの間に、程度の差もあまりみられ

Table 7 教師の自己像と小学生の描くすきな教師像との  
t 検定結果

項 目	男性 教師	男子 小学生	男性 教師	女子 小学生	女性 教師	男子 小学生	女性 教師	女子 小学生
1. くらい—あかるい	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
2. 不幸な—幸福な	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
3. つめたい—あたたかい	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
4. ふまじめな—まじめな	<<	<<	<<	<<	<	<	<	<
5. 元気がない—元気な	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
6. 対立的な—協力的な	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
7. 責任感のない—責任感のある	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
8. 自分勝手な—思いやりのある	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
9. けじめのない—けじめのある	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
10. いらいらした—おちついた	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
11. きゅうくつな—自由な	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
12. やる気のない—やる気のある	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
13. 下品な—上品な	<	<	<	<	<	<	<	<
14. 考えが古い—考えが新しい	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
15. 不公平な—公平な	<	<	<	<	<	<	<	<
16. たよりない—しっかりした	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
17. きびしい—やさしい	<<	<<	<	<	<	<	<	<
18. つまらない—たのしい	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
19. いばる—したがる	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
20. きらいな—すきな	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<
21. 尊敬できない—尊敬できる	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<	<<

<: 5% 水準で有意差が有る。

<<: 1% 水準で有意差が有る。

ない。

Table 8 には、教師の描く理想の教師像と小学生の描くすきな教師像とを比較して、t 検定を行なった結果が示されている。これをみると、いくつかの項目において教師と小学生の間にずれがあることがわかる。思いやり、おちつき、公平さ、やる気、等では、教師は男子小学生の期待するレベルよりもっと高いレベルを自己の理想としている。一方、あかるさ、自由、あたたかさ、たのしさ、等では、教師の理想のレベルは女子小学生の期待するレベルよりも低くなっている。女子小学生は相当高いレベルを期待していることがわかる。また「きびしい—やさしい」に関しては、男性教師はかなりのきびしさを理想としており、小学生の期待するレベルとの間に有意差が認められる。

Table 8 教師の描く理想の教師像と小学生の描くすきな教師像との  
t 検定結果

項 目	男性 教師	男子 小学生	男性 教師	女子 小学生	女性 教師	男子 小学生	女性 教師	女子 小学生
1. くらい—あかるい			《				《	
2. 不幸な—幸福な			《				《	
3. つめたい—あたたかい			<					
4. ふまじめな—まじめな								
5. 元気がない—元気な								
6. 対立的な—協力的な								
7. 責任感のない—責任感のある								
8. 自分勝手な—思いやりのある	>				》			
9. けじめのない—けじめのある								
10. いらいらした—おちついた	》				>			
11. きゅうくつな—自由な			《				《	
12. やる気のない—やる気のある					>			
13. 下品な—上品な	>							
14. 考えが古い—考えが新しい					》			
15. 不公平な—公平な	》				》			
16. たよりない—しっかりした								
17. きびしい—やさしい	<		《					
18. つまらない—たのしい			<					
19. いばる—したがう								
20. きらいな—すきな			《				《	
21. 尊敬できない—尊敬できる			《					

<: 5% 水準で有意差が有る。  
《: 1% 水準で有意差が有る。

#### 4. 教師の描く生徒像と小学生の自己像との比較

Table 1, Table 2 と Table 6 を用いて、教師の描く生徒像と小学生の自己像とを比較する。

Table 9 は、教師の描く好きなタイプの生徒像と小学生の自己像とを比較して、t 検定を行なった結果を示したものである。この結果をみると、まじめさ、責任感、思いやり、けじめ、おちつき、やる気、等の項目においては、教師は生徒に対して現実のレベルよりも高いレベルを期待していることがわかる。一方、小学生は教師の期待するレベル以上に自分を幸福だと思っている。また女子小学生は教師が期待する以上に自由を感じている。

次に、教師の描くきれいなタイプの生徒像と小学生の自己像とを比較してみた。その検定結果は表示しないが、すべての項目において、小学生の自己像は教師の描くきれいなタ

Table 9 教師の描く好きなタイプの生徒像と小学生の自己像との  
t 検定結果

項 目	男 性 教 師	男 子 — 小 学 生	男 性 教 師	女 子 — 小 学 生	女 性 教 師	男 子 — 小 学 生	女 性 教 師	女 子 — 小 学 生
1. くらい—あかるい								
2. 不幸な—幸福な	<		<<		<		<<	
3. つめたい—あたたかい	>>		>>		>		>	
4. ふまじめな—まじめな	>>		>>		>		>	
5. 元気がない—元気な								
6. 対立的な—協力的な	>>		>>		>		>	
7. 責任感のない—責任感のある	>>		>>		>>		>>	
8. 自分勝手な—思いやりのある	>>		>>		>>		>>	
9. けじめのない—けじめのある	>>		>>		>>		>>	
10. いらいらした—おちついた	>>		>>		>>		>>	
11. きゅうくつな—自由な			<<				<<	
12. やる気のない—やる気のある	>>		>>		>>		>>	
13. 下品な—上品な	>>		>>		>		>>	
14. 考えが古い—考えが新しい							<	
15. 不公平な—公平な	>				>			
16. たよりない—しっかりした	>>		>>		>>		>	
17. きびしい—やさしい			<					
18. つまらない—たのしい								
19. いばる—したがる								
20. きらいな—すきな								
21. 尊敬できない—尊敬できる			>				>	

<: 5% 水準で有意差が有る。

<<: 1% 水準で有意差が有る。

イブの生徒像よりも得点が有意に高かった。これは当然予想される結果である。

## 考 察

以上の結果に基づいて考察していく。小学校教師の持っている自己像は、あかるく、まじめで、責任感があり、公平であるという内容であり、一般的な人間像としても大変好ましいものである。このことは、年齢の低い小学生を教育するにあたって大変重要なことであり、望ましい結果である。特に、小学生は公平さ（えこひいき）に対しては敏感な反応を示すものである。ひいきしない公平な教師は、他の欠点を少々持っていたとしても、公平であるということによって生徒から信頼されることがある。

自己像において性差のある項目は「いばる—したがる」である。女性教師は自己をあまり権威的であるとは捉えていない。このことは、従来の日本の社会における男女の役割を



反映しているとも考えることもできる。この相違はきわめて興味深く、学校という場で、男性教師は父親的役割、女性教師は母親的役割を担い、生徒の精神の発達に対して重要な意味を持っていることが考えられる。

次に、小学校教師が理想として描いている教師像をみると、良いイメージで捉えている自己像をさらに向上させ、よりあかるく、よりあたたかく、より元気、等と考えている。このことは、教師の向上心や自己研鑽の姿勢の現われとみることができる。このような理想像の実現には困難があり、ときには行き過ぎがあるとしても、覇気のない、現状に満足して日々を送る教師になるよりは、教師としての一つの望ましいあり方であると思われる。

中でも、男性教師は現状以上のきびしさを理想像としているが、女性教師はむしろ現状の方がややきびしいと考え、中庸を理想としている。このことから、男性教師は愛情を根底に置いた上での一層のきびしさを理想としていることがうかがわれる。また、男性教師は「いばる—したがう」の項目では理想像と現実像に差がなく、現実に関心している中庸の姿勢が最も好ましいと考えている。それに対して、女性教師は「ふまじめな—まじめな」、「不幸な—幸福な」の項目において理想像と現実像に差がないので、女性教師は精一杯まじめに教育に取り組んでおり、そのことが教師としての幸福にもつながっていると考えられる。

教師の好きな生徒像については、教師だけでなくすべての人が好ましいと考える徳性がイメージされているが、その中でも、あかるさ、元気、責任感、思いやり、やる気、等が重視されている。これらは人間として本質的な徳性であり、また社会生活を営む上でも欠かせない徳性である。教師の健全な見識が反映されていると考えることができよう。

きらいな生徒像としては、ふまじめ、無責任、自分勝手、不公平、等をあげている。これらは誰もが忌避する性質である。また Table 5 によって男性教師と女性教師がきらいな生徒像を比較すると、両者が共にきらいなものは、つめたい、自分勝手の2項目だけである。他の項目には重複がみられず、きらいな生徒像には性差が存在することがわかる。

つめたい、自分勝手が共にきらわれるのは、これらの性質が、人間の本质として、また社会生活を営む上で、困ったことであるためだと思われる。これらの他に、男性教師は、いらいらした、考えが古い、きびしい、いばる、をきらいな生徒像としてあげている。「いらいらした」をきらうのは、ヒステリー的なものをきらうという感情によるのではないかと思われる。「きびしい」、「いばる」をきらうのは、人間は他人に対する寛容が必要であると感じているためではないかと思われる。また「考えが古い」をきらうのは、日進月歩の現代において、古い考えに捉われて自分の世界を狭めてしまうことをきらうためであろう。

一方、女性教師は、くらい、ふまじめ、元気がない、無責任、やる気のない、下品、不公平、つまらない、等と多くの項目をあげている。これらを裏返すと、あかるく、まじめで、元気があり、責任感が強く、やる気があり、上品で、公平で、たのしい生徒が好きだということになる。いかにも女性特有の完全主義と、他人に対する要求の強さを感じさせるが、その反面では、人間を非常に高く評価し、こうあってほしいと願うために、きら

う項目が多くなるとも考えられる。

これらのことから考えると、男性教師は生徒に対して寛容さを持ち、女性教師は人間のあるべき姿を高く置いていると考えられる。このことが小学生の上にもどのような形で表現されるかは推測しがたいが、良い面で表われることを願いたい。

次に、教師の自己像と小学生の描くすきな教師像を比較すると、ほとんどの項目において程度の差があるのみで、各項目における矛盾はみられない。

教師の理想とする教師像と小学生の描くすきな教師像を比較すると、女子小学生は、あかるく、あたたかく、やさしい、等の情緒・感情面で教師に対して高い要求を持っている。これは、情緒の安定・満足が幸福と結びつくという、女性としての特質が小学生時代から顕著に表われているためではないだろうか。

教師の好きな生徒像と小学生の自己像を比較すると、当然のことながら、教師の方が生徒に対して高い要求を持っている、特に、女子小学生に対しては、自分をもっと尊敬できるように、すなわち、もっと自信を持つようにと願っていることがわかる。また、あかるさ、元気、等では、教師と小学生はお互いに満足し合えるようである。

以上の事柄から結論すると、教師は自分の人間性の向上をめざし、教師に対して情熱を持っているとみてよいであろう。また小学生も教師に対する信頼と尊敬、親しさを持っていると考えられる(加藤・高木・堀, 1980)ので、小学校における教師と生徒の関係は大変良好な状態にあると推測できる。両者の間には、大きな矛盾、たとえば教師は生徒にきびしくありたいと思ひ、小学生は教師にやさしさを要求する、というようなことはない。このように良好な人間関係をそれ以後も維持し、発展させるために、小、中、高校の教師の一層の努力を願いたいと思う。

〔付記〕本研究の実施にあたっては、筑波大学加藤隆勝教授、香川大学商業短期大学部堀啓造助教授に多大な御協力をいただきました。記して謝意を表します。

小学生のデータは伊藤忠記念財団の助成によって行なわれた「現代青少年の人間関係—親子関係・教師生徒関係・友人関係の特質と生活感情—」(1981)のデータから転用させていただきました。データの転用を了承して下さった、研究者代表の筑波大学加藤隆勝教授に厚く御礼申し上げます。また共同研究者であった常葉学園大学石川透教授、文教大学田中祐次教授、静岡大学落合良行助教授、香川大学商業短期大学部堀啓造助教授の方々にも厚く御礼申し上げます。

#### 引用文献

- 加藤隆勝 1979 学校教育についての教師および大学生のイメージ 筑波大学心理学研究, 1, 35-53.  
 加藤隆勝・高木秀明・堀 啓造 1980 現代っ子の教師観 教育心理, 28, 377-385.  
 加藤隆勝・石川 透・田中祐次・落合良行・高木秀明・堀 啓造 1981 現代青少年の人間関係—親子関係・教師生徒関係・友人関係の特質と生活感情— 伊藤忠記念財団調査研究報告書, 6.  
 高木秀明・堀 啓造 1980 子どもの教師観に関する文献紹介 教育心理, 28, 386-389.